学校教育目標：よりよく生きぬく釜っ子《よく考える子・たくましい子・思いやる子》

釜小だより

瑞浪市立釜戸小学校　学校だより　ＮＯ６
令和　７年　８月２８日（木）
９月
校　長　　玉　置　和　也

夏から秋へ

釜戸町夏まつりで演技を披露したのは、もう１カ月以上前になります。夏休み前、夏休みの計画を立てていた３年生の学級活動では、「夏休み楽しいけど、学校がいい。」と言っていました。今は、子どもたちは夏休みを名残惜しく思っているとは思いますが、そんなふうに言ってもらえる学校がまた始まりました。

夏休み前集会では、「夢や希望を育む夏休み」を願い、夏休みも「自分らしく、やってみよう」と「ありがとうを言ってもらえる人になろう」という話をしました。子どもたちにそのように話をしたので、私もこの夏にしたことや思ったことなどを少し紹介します。

毎年この時期は、そばの種を蒔きます。７月に伸びた草を刈り、トラクターで耕します。耕しているとだんだん畑らしくなっていき、畑一面が真っ平になっていくのが気持ちよいものです。そうしていると、必ずカラスが飛んできます。トラクターが進んでいるその近くをカラスは虫を見つけてはついばみ始めます。そうもしていると、近くにいたキジらしき鳥も畑にやってきます。どこで見ているのか、何かにおいを感じるのか？全く不思議と毎年思っていました。調べてみると、どうやらカラスの嗅覚は鳥類の中でも極めて弱く、その代わりに、優れた視覚と学習能力でエサを探し当てているのだそうです。視力は人間の５倍以上もあるそうです。なるほど、毎年同じ時期に赤色のトラクターが動いている。耕されたきれいな場所はエサを取りやすいと学習しているのかもしれません。どこから飛んでくるのか、必ずやってきて、こちらからの攻撃もないので、悠々とエサ探しです。８月下旬に入り、７月から伸びた草をトラクターで刈り取り、そばの種を畑に蒔きます。蒔き終えたら、もう一度トラクターの耕うんで土を混ぜて、たねを土の中に混ぜ入れます。それも知っているのか、鳥たちは種をついばみにやってきます。これから芽が出て、大きくなると白い小さな花が畑一面に広がり、きれいです。これを眺めるのを毎年楽しみにしています。１０月末には、そばの実を収穫します。毎年何かしら学びがあり、ひとつのやりがいになっています。

もう一つは、夏の甲子園での県立岐阜商業の活躍です。テレビや新聞の報道でこの夏ずっと笑顔のプレーを目にしました。その中の一人の選手は、左手にハンデがありながら、バットをうまくコントロールしてものすごい勢いで振りぬきヒットを打つ、グラブを器用に持ち替え、捕球から投げる。この選手自身が「自分と同じような人に夢や希望を与えられたら。」「人と違うけど、自分は違うと思っていない。不自由だけどハンデにしない。」とコメントをしていましたが、自分の夢や希望に向かっていく強い姿に多くの方が感動されたと思います。この選手の姿は、まさしく自分らしくやってみることが、選手としての活躍、人としての成長につながったのではないかと思いました。

この夏の間に子どもたちが生き生きと何か取り組んだこと、小さなことでもやってみたこと、作品作りや学習、お手伝い、それぞれの努力や経験などすべてが、日常に生かされたり、新たな夢や希望を見つけたりすることになり、この秋の実りにつながっていきます。